

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100842		
法人名	医療法人社団慶城会		
事業所名	グループホーム仰星台入綾		
所在地	宮崎県日向市東郷町山陰丙1494-1番地		
自己評価作成日	平成24年8月27日	評価結果市町村受理日	平成24年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572100842&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活に視点を置き、家事、その他、残存能力を引き出すことを目的に、職員全員で取り組んでいる。ホームの職員は、「安心、安全」をモットーに、利用者の家族に実感してもらえ、笑顔が見られることを喜びとして、日々のケアに励んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が話し合って作成した理念を共有し、利用者に寄り添うケアを提供している。外部講師による音楽療法とケアビクス専門指導を毎月各1回開催し、利用者の残存能力を生かし、自立を促す支援を行っている。地域行事に参加し、ホーム行事にも地域の方に参加してもらうなど、地域とのつきあいを大切にしている。非常ベルを外にも設置して、災害対策にも地域の協力を得られる体制を構築している。利用者本人の思いを大切にして、本人の選択を促す声かけをしている。職員の意見が反映され、各居室にベッドから扉まで手すりが取り付けられた。職員の個性が発揮できるホームである。評価結果は、家族にも送付し、報告している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合って理念を作り、玄関と事務所にはって、理念に沿ったケアができるように心がけています。	職員全員で理念を作成し、それを共有し、音楽療法やケアボックスを取り入れるなど、日々のケアの中で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方と挨拶、野菜をいただいたり、地区の班に加入、行事には進んで参加するように努めています。	自治会に加入し、地域の情報を共有できている。行事には相互に参加があり、避難訓練なども地域の協力が得られる体制にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時、認知症について研修に行った職員から研修報告を行ってもらいました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時、現状報告して委員の方より出された意見を後日討議して日々の介護に生かせるよう努めています。	ホームの現状報告や話し合いを行い、地域の委員からの行事案内に、利用者と職員は参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの書類提出、市町村担当者と、日頃より連絡を密にとっています。	市の担当者と密に連絡を取り、調査報告書は1部、市の担当窓口に提出して、ホームの実情やケアサービスの取組について報告し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、自由に利用者が出入りできるようにしています。外門は国道沿いで交通量が多いので、安全面を考え閉めています。カギはしていません。	国道は交通量が多く、安全面を考慮して、国道沿いの門扉は閉めていることが多いが、職員は身体拘束の弊害を十分理解し、見守りを重視したケアの提供を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議時に研修を行い、少しでも理解できるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成24年度は研修に参加できず、支援するまでにはまだまだ不十分です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、利用者及びその家族に説明を行い、療養面、金銭面において、納得を得た上で同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に声掛けして、意見、要望を表せるように努めています。	運営推進会議や家族の来訪時に、意見や要望を表せるよう、声かけを行っている。利用者に寄り添い、意見や希望をくみ取るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の勉強会を実施して、職員から意見を出してもらい、グループホームの運営に反映させています。	毎月の勉強会や日々のミーティング時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。居室の手すり設置に、職員の意見が反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数を配慮し、すすんで研修に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月毎、他の施設との意見交換を目的とし、管理者会議に参加しています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ本人の意思・要望を優先し、会話し、納得できるよう手助けしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が何を一番に望んでいるか、また、事業所に対してどのように思っておられ、希望に応じた対応に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を聞き、その人に何が必要なのか、一番身近な所から始めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで培ってきたその人の人生を聞き出し、よい部分を引き出し、耳を傾けながら一緒に行ったり、また、アドバイスしながら、見たり聴いたりして楽しく過ごせるように、心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日、日常生活の様子をお便りに書き、本人が「電話して下さい」等の訴えがある時には、すぐ対応を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会して頂けるように、気軽に立ち寄って下さるよう努めています。	ドライブや買い物で外出した時など、利用者の自宅近くを回り、声かけを行っている。請求書送付時に、手書きのコメントと写真を入れて状況報告し、関係継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールに出て来られ、皆さんと一緒に同じ作業を行い、孤立しないように声かけを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列病院へ入院された時は、他の利用者の受診時に、面会に行くように心掛けています。また、退所された家族に出会った時は、声をかけるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ会話の時間を持ちながら、選択できる雰囲気作りに努めています。また、家族の情報も活用しています。	会話を大切にし、意向や希望の把握が困難になってきている利用者に対しては、表情や動作で把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報も参考にしながら、アルバムや人形を持って来て頂き、馴染みの環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、健康状態、心身状態を確認しています。また、無理のない程度で、洗濯物たたみや新聞折りなどの軽作業をお願いしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回勉強会を行い、意見を出し合って、ケアの共有に努めています。また、家族の面会時は様子などをお伝えして、希望なども含め、話を伺っています。	利用者本人や家族の意向を反映し、毎日のミーティングで意見を出し合い、また、毎月1回勉強会でモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果など、個別記録に記入したり、申し送りノートも活用しながら、情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室変更や食事形態の変更など、その時々ニーズに対応して支援を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	堤防の草刈りをして頂き、避難訓練の参加もして頂いています。隣の魚屋さんのお刺身を買ったり、野菜を貰ったりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の協力病院を月に1回、受診しています。他科受診は、ご家族にも同行をお願いしています。	母体の病院に、月1回、受診の支援を行っている。他科受診は、家族対応になっているが、柔軟に対応している。訪問歯科診療を受診できる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	速やかに報告し、看護師が健康管理や状態の変化に対応しています。常に主治医と連絡(受診)できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院での状態を把握して、回復状況に合わせて、スムーズに対応しています。家族・本人と医療機関と施設が話し合います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日中の様子をご家族に報告し、重度化や終末期に向けた方針を作成して、利用開始時に利用者やご家族に説明して、同意を得ています。母体病院の協力もあります。	重度化・終末期ケア対応指針を入居時、家族に渡して説明し、医療に関する同意書を作成し、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時は、直ぐに対応できるように、医師、看護師とも連携を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、防災機器の取り扱いや緊急通報の確認を行っています。定期的に避難訓練を行っています。	年に2回、夜間想定避難訓練を行っている。訓練に際しては、事前に近隣に書面で通知している。外にも非常ベルを設置して、近隣にも聞こえるようにして、協力を得られる体制になっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った声掛けを行い、笑顔で接するように、言葉使いに気を付けるようにしています。	年配者として、一人ひとりの人格を尊重し、敬語で声かけを行っている。さりげないトイレ誘導や入浴介助など、プライバシーに配慮したケアの提供を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人に合った介護を行い、安心して生活できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合った声掛けをして、手伝い等もそれぞれちがひ、その人らしく過ごしてもらえるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、誕生会等、本人に声掛けし、選んでもらって、納得した洋服を着てもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に声掛けしたりして、利用者が喜んで頂けるように気を付け、利用者と一緒に出る事は一緒にして、支援しています。	会議で話し合ったが、法人の方針で、検食者1名が同じ献立になっている。献立の一部は、職員も一緒に食べている。利用者の間に職員が座り、同じ食卓を囲んで楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のチェックを行い、朝のお茶の時間は、毎回色々な飲み物を提供しています。おやつ時も、季節に合った飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回、夕食後に、義歯をコップにつけ、週一回消毒しています。また、天気の良い日は、コップを日光消毒しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの訴えのある時は、誘導を行っています。ポータブルトイレを使用し、オムツの使用を減らすことができた利用者の方もいます。また、訴えのある前に声掛けをすることにも留意しています。	毎日のミーティングで、意思表示の困難な利用者のトイレ誘導について検討し、立ち上がり動作でトイレ誘導を行うなど、自立に向けた支援を行っている。排尿チェック表を活用し、オムツを減らす支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほぼ毎日、リハビリ体操・レクリエーションを行っています。排泄記録のチェックをして、薬の調節を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	着衣・脱をなるべく個人で行ってもらおうようにしていますが、なかなか出来ていません。しかし、努めています。後で入りたいという方には、後で入って頂いています。	受診介助のため、火曜日以外は毎日入浴することができる。入浴を嫌がる利用者には、温泉が沸いたとの声かけや男性職員が対応するなど、個別に支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーション以外にも、新聞たみなどを手伝って頂く事で、日中の活動量を増やしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会にて、注意しなければいけない薬などを話し合い、知識を共有しています。誤薬に気をつけています。気になる利用者の方は、とくに記録をまめに行い、変化を捉えることができるよう、注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方の話に合わせながら、笑って頂けるような会話ができるよう、取り組んでいます。その人の顔をみながら、声掛けに注意し、自分を見つめられるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブには、定期的に行っています。出来るだけ、利用者の希望に沿うことができるように努めています。	歩行が可能な利用者には、近隣の散歩や買い物などの同行など、日常的に外出支援を行っている。外出が困難な利用者にも、ドライブや受診時に、自宅方面に回るなどの配慮をして、外出支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者各自のおこづかいを事務所で保管し、外出時は、財布を持参して、使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がご家族に電話をしたいと希望する時は、いつでも対応し、小包などが届いたら、なるべく利用者本人が電話できるように、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓から、近くの山の景色が眺められ、季節感を味わってもらっています。行事の飾り物をしたり、行事の掲示をしたり、ご家族にも写真を送ったりして、喜ばれています。	玄関や廊下には、職員手作りの作品が展示しており、日常の利用者の写真も多数貼って、ホームでの生活の様子を知ることができる。共用空間は、利用者の過ごしやすい環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや小さなテーブルを置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるペースを作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた道具やソファ、アルバムなどを持ってきてもらっています。安心して生活できるように工夫しています。	使い慣れたソファを居室に持ち込んでいる利用者もいる。また、本人の好きな歌手の写真を職員が集めて、居室に貼って、利用者がホームでの生活を居心地よく過ごせるよう、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人のペースに合わせ、残存能力を生かし、見守りしながら、「できること」を促す生活の支援を行っています。居室に、安全の為に手すりを設置をしています。		